

### 1 子どもの思いの連続

4月、高田駅から直江津駅まで電車に乗って3回出かけた。直江津駅を起点に、まちを歩き、イトーヨーカドー・エルマールを訪れ、上越市立水族博物館うみがたりに行った。子どもは、電車に乗ること、駅から歩いてどこかへ行くこと、また、学校から高田駅に向かう途中で二七の朝市や本町商店街を歩いたり、帰りには昨年度の活動を共につくってくださった大橋さんとお店で会ったりすることなど、駅、電車、まちを一纏めとして緩やかに「えきまち」の捉えをつくってきた。

5月にも2回、直江津に出かけた。1回は三八の朝市と「ライオン像のある館」を訪れ、海にも行った。もう1回はイトーヨーカドーが閉店した後のエルマールショッピングセンターを訪れた。「イトーヨーカドーが閉店してさみしい」「シーンとしていて、イトーヨーカドーがあったお店とは違う感じがした」「エルマールにも閉店するお店があった」「新しいパン屋さんが開店すると分かってうれしい」など、子どもは直江津を訪ねる価値をひろげてきた。また、学校の教室では、紙粘土を使って電車や線路を作ったり、朝市のお店を作ったりしながら空想のえきまちをつくっている。

6月に入り、えちごトキめき鉄道直江津運転センターの見学に行った。車両庫に止まっているイベント車両「雪月花」に乗車したり、所長さんから鉄道会社の概要や運営について話を聞いたりした。これまで以上に、駅や電車への興味を高めている。

### 2 本時のねらい（本時における自分をつくり未来を拓く子どもの姿）

えちごトキめき鉄道直江津運転センターの見学を振り返ることを通して、運転センターの仕事を捉えたり、なぜ直江津に運転センターがあるのか考えたり、友だちと共に運転センターでの活動を振り返って共有したりしながら、駅からひろがる直江津の捉えを更新する。

### 3 本時の構想

#### ○ 直江津運転センター見学を振り返りながら、直江津における駅の存在を捉え直す

直江津運転センターを訪れた子どもは、車両の内側から洗車の様子を見学したり、イベント車両「雪月花」の車内の装飾や窓のつくりを見学したりした。見学を振り返りながら、附属小学校がある高田駅にはない運転センターが直江津にはあることの意味を考え始める。また、直江津駅にはJR車両も入構したり、乗務員が出入りする建物が併設されたりしている。4月から何度も歩き、まちづくりの違いを感じてきた高田と直江津について、駅の規模や施設の有無を視点に加えながら、直江津における駅の存在について捉えを新たにす。

### 4 本時の展開

51・52M/全308M（65分）

時間	番号；子どもの活動 ・；子どもの姿	○；教師の手立て
10	<b>1 運転センター見学を振り返る</b> ・車両の洗車がおもしろかったと話す。 ・「雪月花」の内装が豪華だったと話す。 ・「雪月花」が気動車で驚いたと話す。 ・運転手さんの練習風景が驚いたと話す。	○子どもの発言を板書に整理する。 ○あらかじめ、子どもが発言しそうな話題について板書しておく。 ○子どもの気付きを学級全体にひろげるようにする。
30	<b>2 直江津に運転センターがある意味を考える</b> ・直江津駅は規模が大きいからだ考える。 ・直江津駅は終点だからだと考える。 ・直江津には海があるからだ考える。 ・直江津駅には多くの人が働いているからだ考える。	○「運転センターは高田駅にもある？」と投げ掛ける。 ○教師も子どもと一緒に考えながら、直江津のまちと直江津駅のかかわりについて考えたことなどを話す。
25	<b>3 作文シートに振り返りを書く</b> ・直江津運転センターを見学して気がついたことや楽しかったことを書く。 ・直江津のまちと駅のかかわりについて考えたことを書く。	○子どもの記述から、子どもの捉えを把握するようにする。 ○数名が発表するように指名する。 ○友だちの発表を聞いて、話したいことができた子どもがいれば、指名して発言を促す。

